

トビウオ通信 (9月号)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

《 平成 15 年夏の漁況を振り返って 》

ばいかご漁業

石見部および出雲部のばいかご漁業は、小型底びき網漁業休漁期の6月から8月にかけて行われています。*稼動隻数は7隻ですが、漁期途中で漁を切り上げたため6隻分の集計値です。

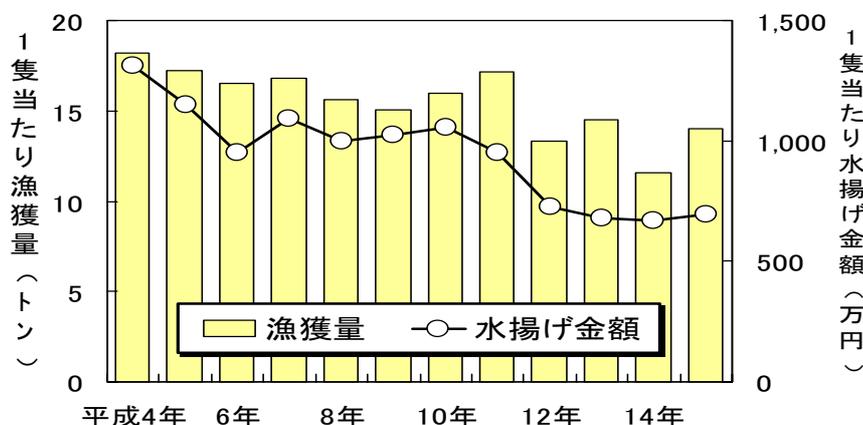


図1 石見部および出雲部ばいかご漁業におけるエッチュウバイの1隻当たり漁獲量と水揚金額の推移

今漁期の石見部(5隻)および出雲部(1隻)のばいかご漁業における総漁獲量は106トン(前年比115%)、総水揚金額は6,218万円(前年比103%)で量・金額とも前年を上回りました。総航海数は191日で前年をわずかに上回りました。また、エッチュウバイの1kg当たりの平均価格は、漁期当初から価格が低迷した影響により500円台を割り込み、前年(581円)を大きく下回る496円でした。

図1に1隻当たりのエッチュウバイの漁獲量と水揚金額の推移を示しました。1隻当たりの漁獲量は14.0トン、水揚金額は600万円で、量・金額とも前年を上回りました。漁獲量はやや回復しましたが、水揚金額は600万円台で依然として低迷しています。

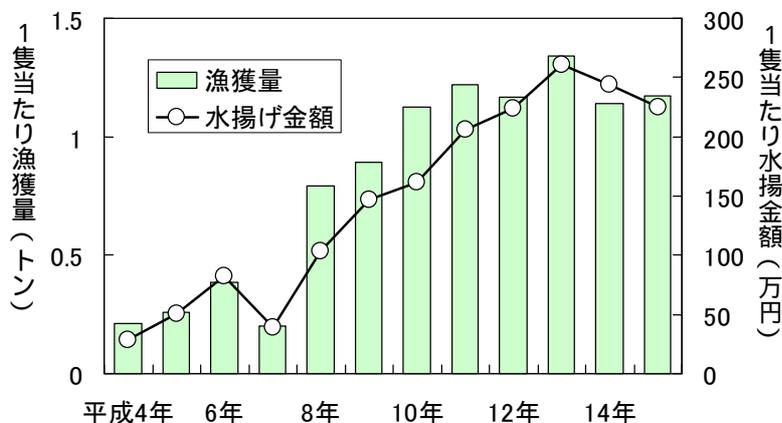


図2 石見部および出雲部ばいかご漁業におけるエビ類の1隻当たり漁獲量と水揚金額の推移

一方、エビ類(モロトゲアカエビ、イバラモエビ)の漁獲量は6.8トン、水揚金額は1,466万円で、量・金額ともに前年を下回りました。

図2に1隻当たりのエビ類の漁獲量と水揚金額の推移を示しました。1隻当たりの漁獲量は1.2トン、水揚金額は225万円でした。平成10年以降、漁獲量は1.2トン前後で推移していますが、平成13年をピークに減少傾向にあります。また漁獲物の小型化が目立ってきており、今後も資源動向に注意していく必要があります。

しいら漬け(まき網)漁業

シイラなどの回遊魚には物陰に寄り添ったり、集まったりする習性があります。これを利用した漁法が「しいら漬け」です。海面に漬木(つけぎ)と呼ばれる竹の筏(いかだ)を浮かべ、流れない様に固定しておいて、そこに集まった魚を網で捕獲するという「まき網漁業」の一種です。本県ではこの漁法が盛んで、主に6~8月、県中・西部の石見地区を中心に、小型底びき網漁業の休漁期に行われます。

本年6~8月漁期の「しいら漬け漁業」による石見地区(大田・和江・五十猛・仁摩)の水揚げ状況は、漁獲量が641トン、金額は1億2,407万円と、平年に比べる量では118%とやや増加しましたが、金額は

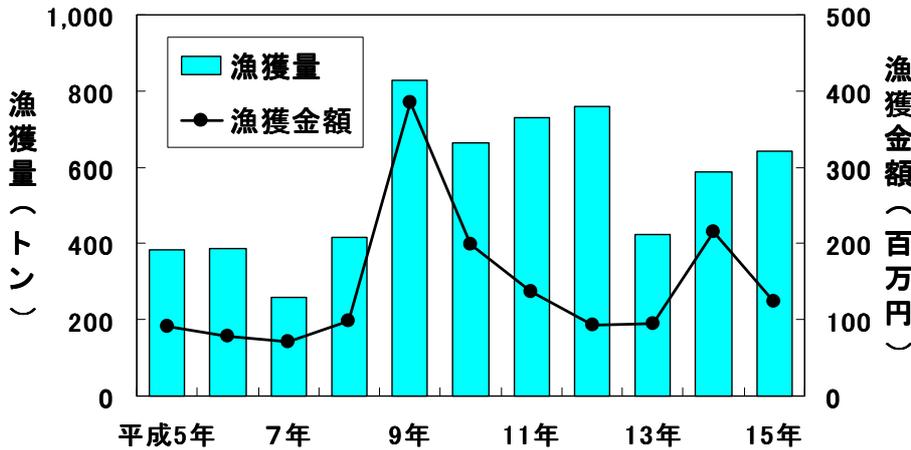


図3 シイラ漬け漁業の漁獲動向

85%まで減少しました(図3)。これは例年(過去10カ年平均)に比べ単価の高いヒラマサの漁獲割合が少なく、単価の安いシイラが例年に比べ多く漁獲されたことにより。総水揚げ金額の64%がヒラマサで、30%がシイラ、その他の魚種はブリ、メダイ、カンパチ、カワハギ類などが混獲されました。

とびうお漁

トビウオ類は冬の間は南方で生活していますが、暖くなると産卵のため山陰沿岸に回遊してきます。島根県には毎年5月から7月に来遊し、刺網、定置網、船曳網、まき網などで漁獲されます。アゴ野焼き(竹輪)を始め、アゴだし(焼きアゴなど)、開きなどの加工原料となり、もちろん、鮮魚としても利用されます。本県で漁獲されるトビウオ類はそのほとんどが、ホソトビウオ(丸アゴ、丸トビ、小目)とツクシトビウオ(角アゴ、角トビ、大目)です。

本年5~8月漁期の石見地区(大田・和江・五十猛・仁摩・浜田)の水揚げ状況は、漁獲量が77トン、

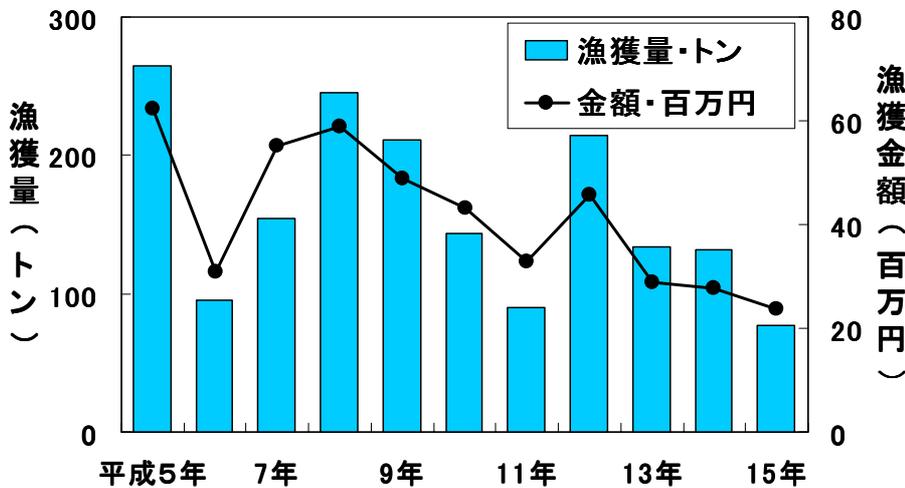


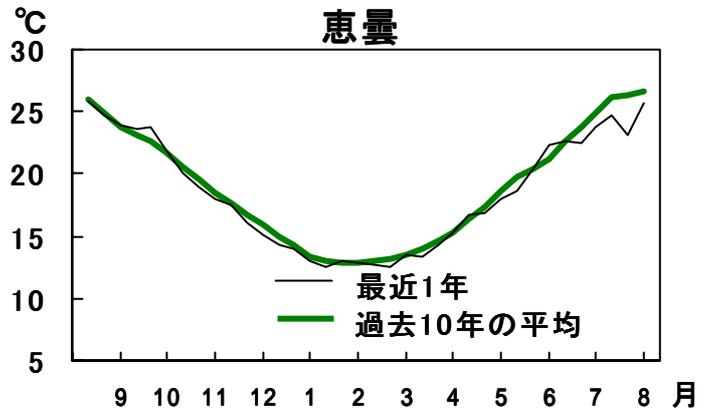
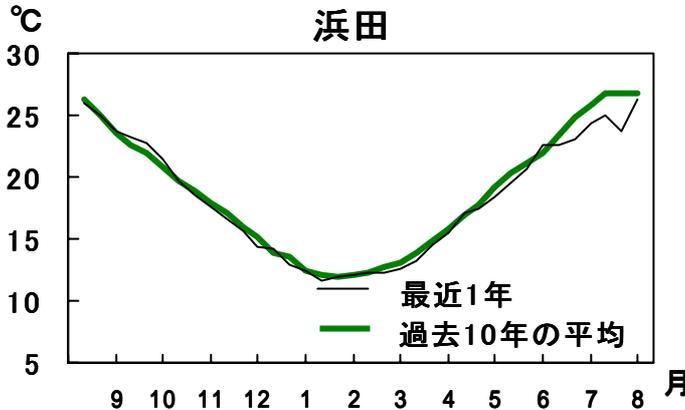
図4 トビウオ類の漁獲動向

金額は2,360万円と、平年(過去10カ年平均)に比べる量は46%、金額は54%となり、量、金額とも平成5年以降では最低となりました。量が少なかったことから、例年に比べkgあたりの平均単価が平成11年以降の300円台(308円/Kg)と比較的高かったものの、単価の高いツクシトビウオの占める割合(14%)が例年(20%)に比べ少なかったことから、金額は減少しています。

《 8月の海況 》

8月	月平均	平年差	評価
浜田	25.0	-1.9	かなり低め
恵曇	24.5	-1.8	やや低め

8月の月平均水温は浜田で25.0、恵曇で24.5となり、平年を2近く下回り「かなり低め」となりました。冷夏と8月中旬の台風の影響で、海の中も“冷たい夏”となりました。



島根県・鳥取県・山口県の各水産試験場が実施した海洋観測結果(8/25～9/4)によると、各層の水温は、表層(0m)が23.1～28.1(平年差は-1.5～+1.0)、中層(50m)が9.5～23.6(平年差は-3.2～+5.7)、底層(100m)が3.6～20.4(平年差は-5.1～+8.7)となっています。

沿岸域の水温は先月より1前後上昇しましたが、全海域で平年並み～平年を下回る結果となりました。先月同様、隠岐諸島東側海域では、山陰・若狭沖冷水域が発達した影響で平年より約1.5低くなっていました。中、底層では、隠岐諸島の西北西約75マイルから西南西約95マイルまで南北に長く広がる島根県沖冷水域の中心がやや南下し、北側では先月より水温が上昇しました。また、隠岐諸島の東側海域では北緯37度、38度の所に山陰・若狭沖冷水域が見られ、これら冷水域の中心付近の水温は平年を大きく下回りました。また先月同様、2つの冷水域に挟まれた海域では暖水域が形成され平年を大きく上回り、隠岐諸島北西の海域では平年を8も上回っていました。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「やや低め～平年並み」、中層では「かなり低め～かなり高め」、底層では「かなり低め～はなはだ高め」となっています。

《 8月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ主体に304トン、総水揚金額は6,733万円でした。1統当りの漁獲量は101トンで、平年(過去5年平均)の112%、前年の178%となりました。水揚金額は2,244万円で、平年の111%、前年の138%でした。西郷では、マイワシ、マアジ主体に総漁獲量1,645トン、総水揚金額は2億4,600万円でした。1統当りの漁獲量は235トンで、平年の54%、前年の66%となりました。水揚金額は3,515万円で平年の61%、前年の60%となりました。浦郷ではマアジ主体に総漁獲量1,151トン、総水揚金額は7,813万円でした。1統当りの漁獲量は288トンで、平年の110%、前年の137%となりました。水揚金額は1,953万円で平年の74%、前年の60%となりました。西郷、浦郷では、昨年豊漁だったカタクチイワシがほとんど漁獲されませんでした。浜田地区ではマアジが昨年の3倍以上漁獲されましたが、小型魚が主体であったため、金額は1.5倍程度に留まっています。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、ケンサキイカ、スルメイカを中心に177トンで、平年(過去5年平均)および前年の1.7倍となり、前月に引き続き好調に推移しました。浜田に水揚げされたスルメイカは20入りが主体、ケンサキイカは2段半～4段が主体となっています。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は176トン、総水揚金額は9,358万円、また1統当たり漁獲量は25.2トン、水揚

金額は1,337万円で、漁獲量は前年を20%上回りましたが、水揚金額は前年並みに留まりました。主体はムシガレイであり、全体の6割を占めています。この他、アンコウ、ニギスは平年の3~4倍の水揚げがありましたが、一方、ケンサキイカは平年の約1/2の水揚げに留まっています。

恵曇港の総漁獲量は47トン、総水揚金額は3,062万円、また1統当たり漁獲量は15.8トン、水揚金額は1,021万円で、漁獲量はわずかに下回りましたが、水揚金額は24%と大きく下回りました。浜田同様にムシガレイ主体であり、この他、ヤナギムシガレイ、ニギス、アナゴ類、アンコウがまとまって漁獲されています。一方、ケンサキイカは低調で、前年・平年の25%の水揚げに留まっています

【シイラまき網漁業】

石見海域(大田市・和江・五十猛・仁摩町)における、シイラまき網漁業の水揚げは約205トン、2,694万円と量は前年の1.7倍、金額は88%となり、量は多かったものの金額は低調となりました。魚種別漁獲量ではシイラが90%、ヒラマサが8%、金額ではシイラが48%、ヒラマサ45%を占めます。シイラは2~3kg、ヒラマサは1kg前後のサイズが中心となっています。

【定置網漁業】

県東部では漁獲量・水揚金額とも前年および平年を上回りました。県西部では漁獲量・水揚金額ともに前年並みで前年を上回りましたが、隠岐では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を下回っています。県東部ではブリが主体で、その他ではウルメイワシ、ケンサキイカなどが漁獲されています。県西部と隠岐ではマアジ、ケンサキイカが主体で、その他にブリなどが漁獲されています。

【釣・縄】

県東部では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を下回りましたが、県西部と隠岐では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を上回りました。県東部と県西部ではケンサキイカが主体で、その他に県西部ではメダイなどが漁獲されています。隠岐ではメダイ、キダイが主体で、その他ではカサゴ・メバル類、ケンサキイカなどが漁獲されています。

漁獲統計

平成15年8月1日~31日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	55	マアジ、ケンサキイカ	5.5ト	303ト
	西郷	101	マイワシ、マアジ、ブリ	16.3ト	1,645ト
	浦郷	66	マアジ、ウルメイワシ	17.4ト	1,151ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	679	ケンサキイカ、スルメイカ	261kg	177ト
	西郷			kg	ト
沖合底びき網	恵曇	10	ムシガレイ	4.7ト	47ト
	浜田	22	ムシガレイ	8.0ト	176ト
シイラまき網	大田市	14	シイラ、ヒラマサ	1,926kg	27.0ト
	和江	61	シイラ、ヒラマサ	1,707kg	104.1ト
	五十猛	30	シイラ、ヒラマサ	1,511kg	45.3ト
	仁摩町	13	シイラ、ヒラマサ	2,193kg	28.5ト
定置網	浜田	68	マアジ、ケンサキイカ、ヒラマサ	509kg	34.6ト
	美保関	104	ブリ、ウルメイワシ、サワラ類	570kg	59.3ト
	浦郷	57	カワハギ類、マアジ、ケンサキイカ	132kg	7.5ト
釣・縄	浜田	1648	ケンサキイカ、メダイ、アマダイ	26kg	42.1ト
	五十猛	597	ケンサキイカ、マダイ、スルメイカ	38kg	22.6ト

: 1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。

: 西郷のイカ釣は漁協合併に伴うシステムの変更のためデータが集計できませんでした。